



# 木下けいじ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

## 女性警察官の登用拡大求め!

### 刑事課長に初めて女性を登用

南房総市・安房郡選出で、県議会でも発言力を強める木下敬二(きした・けいじ)県議は、9月定例議会を通算20度目の一般質問に登壇しました。木下県議は「女性の活躍社会」を視野に、千葉県警の女性警察官の積極的な採用及び登用拡大を求めました。これに対し、県警本部長は、県警で初めて女性の刑事課長が誕生したことなどを明らかにし、木下県議の提言に前向きに答えました。また、県南地域の基幹産業である農林水産業の振興を重ねて訴え、南房総市にある水産総合研究センターの大規模改修工事の早期着手を要望しました。特別養護老人ホームの入所待機者問題、農業の担い手問題など木下県議の主な質疑を特集しました。

### 9月県議会一般質問に登壇



本会議場の壇上に立つ木下県議

**木下議員** 警察の仕事は、逮捕現場では暴れる犯人を制圧し、災害現場では崩落した家屋の中から人々を救助するなど、業務の特殊性があります。日々一人ひとりがいきいきと職務に精励できるように、育児支

援をはじめとして、組織で最大限のサポートをすることが重要です。警察では、女性警察官の登用拡大についてどのように考えているのか。

**永井本部長** 県警では、多様化する県民ニーズを的確に把握し、安全で安心できる県民生活を確保するためには、女性警察官の登用拡大

### 上級幹部への登用も

**木下議員** 現在、女性警察官はどのようなポストに配置されているのか。

**永井本部長** 県警では、男女の区別なく、能力や実績に応じた適材適所の人事配

### 特別養護老人ホーム施設整備は喫緊の課題

**木下議員** 高齢者を取り巻く現状は、平成27年現

在で65歳以上の高齢者人口は、158万人で県民の約4人に1人は高齢者です。特別養護老人ホームへ入所できないで待機している方が大勢いる状況を、県はどのように考えているのか。

**健康福祉部長** 特別養護老人ホームについては、千葉県高齢者保健福祉計画に基づき、市町村と連携して計画的に整備を進めてきましたが、本年1月時点で県内入所待機者が約1万1千人となっています。

今後、急速な高齢化により、重度の要介護高齢者が増加し、施設介護に対す

置に努めているところです。最近では、警察署の刑事課長に初めて女性警察官を配置したほか、県警機動隊におけるレスキュー隊員や鑑識課の警察犬のハンドラーにも積極的に登用するなどしており、ほとんどのポストに女性警察官を配置している状況です。

また今後、所属長等の上級幹部への登用に向けて、警察庁などの他機関にも積極的に出向させているところです。

**要望** 女性警察官の登用について、重要課題として取り組んでいるとのこと、大変頼もしい限りです。女性の活躍はすべてのところで求められている課題でもあり、警察の取り組みに期待しつつ、注視していきたいと思えます。

### 介護職員不足

**木下議員** 介護職員の確保が大変重要だと思うが、その対策はどうか。

**健康福祉部長** 厚生労働省の需給推計によれば、団塊世代が75歳以上となる平成37年には、本県の介護職員は約2万3千人が不足すると見込まれ、介護職員の確保は喫緊の課題です。

このため、県ではセミナーなどを通じた介護分野への就業や離職者の再就業の促進、事業者と求職者のマッチング、介護職員のキャリアアップ支援などの人材確保事業を実施しています。

**要望** 介護職員不足に對しては、新たな人材が希望を持って働けるよう、県も最大限努力することを要望する。

●県政や南房総市・安房郡・鴨川市へのご要望をお気軽にお寄せください……

〒295-0005 南房総市千倉町牧田164-1  
TEL.0470(44)4111  
FAX.0470(44)4112

●木下けいじ公式ホームページ=<http://kishitakeiji.com/> ●Eメール=[info@kishitakeiji.com](mailto:info@kishitakeiji.com)

# 農林水産振興で地域に活力を

## 水産総合研の大規模改修を訴え!



自席から再質問を求める木下県議

ひとも早いうちに、改修工事に入れるよう期待しています。また、このセンターでの

商品開発や魚介類増産のための人材育成は、これからもしっかりと進めていただこう強く要望します。

## 製氷・貯氷施設整備

水揚げされる

水産物の鮮度を維持し、付加価値を高めながら流通させるためには、大量の水が必要になります。そのため、製氷・貯氷施設は流通拠点となる漁港にとっては必要不可欠な施設ですが、老朽化等により、必要な量の氷が賄えない状況や維持管理費が増え、漁協経営に大きな負担を与えている状況が生じていると聞いています。

平成25年に勝浦漁港、平成27年に片貝漁港で製氷・貯氷施設が整備されています。さらに、銚子漁港では、水不足解消のため、製氷で2倍、貯氷で4倍に能力を高めた施設整備が、また、市場の集約化に取り組んでいる千倉漁港では、低コストで利便性の高い施設整備が、県の支援によって進められているところです。

## 「水産県・千葉」

木下議員 県の掲げる「収益力の高い漁業経営体」づくりの実現には、水産業を取り巻く自然環境や社会環境の変化に的確に対応していくことが必要であり、漁業者の所得向上や消費者が喜ぶ魅力的な魚介類の増産、水産加工品の開発などを行うべく、水産総合研究センターの果たすべき役割は、ますます重要になっていくものと考えます。

研究センター本所の施設については、研究業務に支障が生じないよう、特に緊急性の高い修繕の予算を平成23年度から計上してきており、今年度は、漁業者の要望が強いアワビ種苗の生産に欠かせない飼育用ポンプや水槽等の修繕を実施しているところです。

大規模改修工事については、現在策定中の「県有建築物長寿命化計画」を踏まえながら調整を進め、求められる機能が発揮できるように、早急な改修に向けて努力してまいります。

水産県・千葉を謳っていく以上、それを維持し発展させていくためにも、大変重要な施設だと私は考えています。ぜひ

## 藻場の消失調査へ

木下議員 近年、内房

地区を中心に、藻場がところどころ消失し、その範囲が拡大する場所も見られるところから、地元漁業者からは磯根漁業への影響を懸念する声が聞かれます。県

部海域では長期にわたる藻場の消失が確認されたところから、県では海藻類を餌とするウニの一種であるカンガゼの駆除に漁業者と協働で

は、藻場の消失に対して、今後どのように取り組んでいくのか。

近年、一

## 新規就農は定着率94%

木下議員 農業振興を

進めるに当たり、耕作放棄地や後継者(担い手不足)問題が浮き彫りになってきました。農業従事者の高齢化、後継者不足、離農等が原因と

考えられますが、地域農業の振興を図るためにも、担い手の育成・支援が重要な課題だと思えます。そこで1点

目として、Uターン・イターンによる就農希望者や新規参入者の定着率はどうか。

農林水産部長 本県の新規就農者は、10年前に比べ約2倍の年間400人程度となっており、就農した方々を本県農業の担い手として定着させていくことは

重要です。県の調査では、平成25年から27年度にかけて、Uターン・イターンにより就農した方は約千人おります。そのうち、経営主となつて自営就農した方は613人で、営農を継続している方は576人おり、定着率は94%となっています。

今後とも、市町村等関係機関と連携し、新規就農者へのサポート体制の充実、強化を図り、より多くの方が定着できるよう努めていきます。

更なる就農支援策を充実させていくよう要望します。

定年帰農者への支援

木下議員 新規参入者への

支援のほか、有利な人材の活用は定年帰農者等が考えられます。元々、親が農業に従事し、土地もあると

考えられますので、担い手として大きな戦力になると

思います。そのために、技術指導等の充実強化が必要と思いま

すが、県の考えはどうか。

農林水産部長 農業従事者が減少している中、地域農業を維持発展させていくためには、農地や農業施設を有している定年帰農者を活用していくことが重要

です。県では、定年帰農者を対象に基礎的な技術や経営を

学ぶ研修を実施しており、安房夷隅地域では食用ナバナなどの生産者として、定年帰農者が活躍しています。今後とも、研修会や現地指導などを通じて、栽培技術や経営に関する指導を継続的に実施することにより、定年帰農者を支援してまいります。

所得向上策

木下議員 他の産業並みの

農業所得の確保が、担い手の確保につながると思うが、県としてどのような対策、支援を考えているのか。

森田知事 将来にわたり新たな担い手を確保し、本県農業を持続的に発展させるためには、意欲ある農業者の規模拡大を図り、生産性を高めながら、農業所得を向上させることが重要です。そのため県では、担い手への農地集積を進め、経営力の向上を図るための研修会や助言等により、他産業並みの農業所得を確保している認定農業者を支援しています。さらに、販売額3千万円以上の経営体である「アグリトップランナー」を育成するなど、ビジネス感覚にあふれる企業的な経営体を育成し、農業所得の向上に努めてまいります。

# 担い手の育成・支援が重要